

あいあいあい

I eye 愛

2024年
8月号

6月27日 第36回通常総代会



生協運動の揺らがぬ足場を作っていきます

理事長 高橋 千佳

第36回通常総代会において、上程したすべての議案に可決承認を頂き、ありがとうございます。総代会でお話した、「日本は新しい戦前にいる」というメッセージに、総代さんから共感の声を頂きました。政府は琉球弧の軍事化を進め、安保関連3文書を前面に出し、戦争の準備をしているかのようです。そして世界に目を向ければ、終わらない戦争の中で犠牲になる人々の姿に胸が痛みます。助け合いの組織である生活協同組合が運動を進めていくその先には、必ずすべての人にとつての平和があると信じ、「戦争が出来る国」ではなく「冷静に對話する国」を求め続けます。

そしてまたしても延期が発表された女川原発再稼働。延期ではなく、「頭を冷やして今一度命を一番に考え、中止を」と求めることに変わりはありません。協同の力で人、食、環境を大切にし、持続可能な社会を目指すあいコープは、誰もが平和で穏やかに暮らせる未来のため、諦めず活動が続けて参ります。

一方、今総代会では、第3号議案「労働者協同組合設立及び業務委託契約締結の件」が理事会の議論の未熟さゆえに撤回となり、皆様にご心配をおかけしました。その他、総代の皆様から事業、活動それぞれに対する厳しい指摘もいただきました。理事会として一つ一つを重く受け止め、説明責任を果たすと同時に、行動をもって総代の皆様を示さなければなりません。同じ理念に共感する人々が集うあいコープが、今後も活動を続けるためには、職員の健全な職場作りや組合員の積極的な参画は欠かせません。「あいあいあい」の精神、「私」たちが、自分の「目」で確かめて、「愛」のある選択をするという基本に立ち、襟を正して参ります。

平和で豊かな社会を作るための活動。その土台そのものが揺らがぬよう、基礎を固め、根を深く育てていきます。そして、あいコープの理念の下、同じ歩調で歩んでくださる生産者の皆さんへの感謝も忘れず、今年度も一歩一歩進んで参ります。

CONTENTS

- ▶2024年度 総代会報告 …2
- ▶たねまきプロジェクト6年目スタート …3
- ▶循環するいのちをいただく【米沢郷牧場】…4-5
- ▶便利で美味しい海鮮丼 …6
- ▶女川の地で女川原発を考える …7
- ▶生産者さんにあいに行こう「登録米産地」 …8

第36回 通常総代会

6月27日、仙台駅前の中小企業活性化センターに於いてあいコープみやぎ第36回通常総代会が開催され、新体制の役員を含むすべての議案が可決承認されました。

今総代会では第3号議案として「労働者協同組合の設立と業務委託」についての議案があり、議案書説明会でも賛否様々なご意見を頂いておりましたが、6月4日の定例理事会で監事から、審議不十分であるというご指摘を頂き、議論の末、総代会直前で議案の提起を撤回いたしましたことをご報告いたします。

各議案の提起の後、総代からの意見陳述では、PB商品の開発にもっと組合員が参加できる仕組みを作るべきといった要望や、生協職員の待遇が妥当か、また、役員の使用する車両など生協の資産が相応であるかなどの質問が寄せられました。配達職員の入れ替わりや、中堅職員の退職などにより、組合員の皆さんにご心配をおかけしている責任を理事会は重く受け止め、生協運営に関する様々なことを諮問する体制を、より強化していく予定です。本紙編集中にはまだ議論の最中ですが、早期に総代の皆さんに責任を持ってお答えしたいと準備を進めております。

採決結果 ※第3号議案は提起取り下げ

議案	反対	保留	賛成	結果
第1号議案 2023年度活動・事業報告決算及び余剰金処分案承認の件	7	5	92	可決
第2号議案 2024年度活動・事業方針、計画及び予算の決定の件	8	18	78	可決
第3号議案 あいコープと協働する労働者協同組合(ワーカーズ)設立及び業務委託締結の件	-	-	-	-
第4号議案 役員選任の件	6	5	93	可決
第5号議案 役員報酬限度額決定の件	0	11	93	可決



第31期理事会 発足

今総代会で承認され、第31期理事會がスタートしました。時代の変化に向き合いながらも、芯の通った生協活動を続けるため、力を合わせて参ります。

◆理事・監事紹介◆ (敬称略)

- 理事長 高橋 千佳
- 専務理事 高橋 正人
- 常務理事 吉武 悠里
- 常勤理事 大滝 満雄
- 理事 石井 朱里
- 理事 石川 佳名子
- 理事 太田代 一世
- 理事 櫻井 洋子
- 理事 佐藤 あきな
- 理事 佐藤 有子
- 理事 鈴木 真奈美
- 理事 高橋 あゆみ(新)
- 理事 辻 朗子
- 理事 中島 恵子
- 理事 萩原 晃世(新)
- 理事 藤田 紀子
- 監事 砂金 直美
- 監事 半田 正樹



新理事になりました高橋あゆみです。勉強不足で組合員さんから教わることも多い私ですが、組合員さんや生産者さん、色々な人とのかわりを楽しみながら、くらしと地域をよくする活動をしていきたいです。どうぞ宜しくお願いします。



脱原発エネルギーシフト委員会の担当理事になりました萩原晃世です。あいコープ歴は4年、どんな未来にしたいのか?と真剣に取り組んでいる皆さんと、共に考え歩いていきたいです。どうぞ宜しくお願いします。



開会の挨拶をする高橋千佳理事長



パルシステム連合会やあいコープふくしま、みんなの輪、共生会などから駆け付けて下さった来賓の皆様



たねまきプロジェクト ◆種子法・種苗法について考え たねを守り つなぐ◆

たねまきプロジェクト (略してたねプロジェクト)

2018年、主要農作物種子法の廃止に危機を感じ、「種(たね)にまつわる現状、問題を学ぼう」と始まりました。あいコープの主要農産産地の一つ、秋保ゆうきの会の渡辺重貴さんのご協力を得ながら、組合員が種をつなぐ活動を続けています。

小豆の種をまきました

小豆がタネって知っていましたか？今年で7年目のたねまきプロジェクト、初日から天候が悪く延期になり7/6に無事に種まきをする事ができました。

この日は気温が高い予報で、熱中症を心配していましたが、秋保は涼しく気持ちの良い風の吹く中の作業となりました。昨年、猛暑に負けずに沢山採れた種(丹波大納言)は、見るからに美味しそう！そしてつやつやできらきらしていました。渡辺さんのひみつ道具で畑に穴を空け、種を2粒ずつ入れて優しく土をかけます。子どもたちも小さな手にたくさんの種を持ち、楽しそうにまきました。

渡辺さんが手を掛けている畑はふかふかで作物に対する愛情を感じます。大人も子どもも楽しくて種まき作業はあっという間に終了。最後に畑にあった大きな石をみんなで拾い、渡辺さんから「小豆は生命力の強い作物で肥料がなくても丈夫で強い」というお話も聞きました。これから7〜10日ほどで芽が出るので、苗を強くするために次は土寄せと土を盛る作業を行う予定です。

これから暑くなり大変な作業もありますが、これまで繋いできた大切な種です。種をまき育て、種を採りまた翌年まくというこの活動を通して、種のこと食のことを皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。今年はどうな小豆になるのでしょうか？

宮城野若林区担当理事 高橋あゆみ



昨年の参加者から引き継いだ種を蒔いていきます。



上：秋保ゆうきの会の渡辺さん
左：丹波大納言小豆

在来種「仙台芭蕉菜」で作物を繋いでいくことを学ぶ

たねまきプロジェクトの番外編として開催した「仙台芭蕉菜の種をとろう」。かつては仙台で広く栽培されていた仙台芭蕉菜も、今となってはお店の店頭にも並ばず、見たことも聞いたこともないという方が多いのでは。まさに風前の灯火…。

初めに、山形大学農学部教授で、山形在来作物研究会会長の江頭宏昌先生より在来作物についてお話いただきました。「いい種だけを選別していくと次第に種の活力

がなくなってくる。違う種を混ぜ合わせることで不思議とまた元気が戻る。多様性って大事なこと」の言葉に人間も種も一緒なんだなあと感じました。種をとるのは手間がかかり、売れなければ作る意欲も落ちてしまいます。そうして在来作物がどんどん減っていつかいます。「種を継承しよう」としている人の心の支えを」との話に、あいコープみやぎから「仙台芭蕉菜」を発信し広げたいと思いました。

お話の後はいよいよ種とりです。鞆の山を棒でトントン叩き種を出します。ザルを振るって大きいゴミを取り除き、今度はうちわであおいで鞆のカスを吹き飛ばします。小さな小さな種がたくさんとれました。参加した皆さんも家庭用に少しずつ持ち帰りました。それぞれのおうちで仙台芭蕉菜の種とりをして毎年栽培してもらえたら嬉しいです。

担当理事 櫻井 洋子



「どんな種が採れるのかな〜？」

復興途上の能登半島へ

— 被災地視察報告 —



輪島朝市は未だ震災当時のままだった

2024年6月18日～19日、能登半島地震で甚大な被害を受けた石川県輪島市にある塩工房「美味と健康」の橋本三奈子さんを訪問してきました。橋本さんはあいこーぷで供給している「うれしいぬか床」の原料となる輪島の伝統塩を製造されていましたが、お店と住まいは、震災時焼失した輪島朝市エリアにあり、全焼してしまいました。現在は朝市の復興に向けて「輪島朝市を応援する会」を立ち上げ、金石漁港(金沢市)内に仮設事務所を構え、会の運営と、製造を再開できたご自身の塩工場の経営に日々奮闘されています。



「美味と健康」の工房の前で
(左から2番目が橋本さん)



塩職人の中道さん

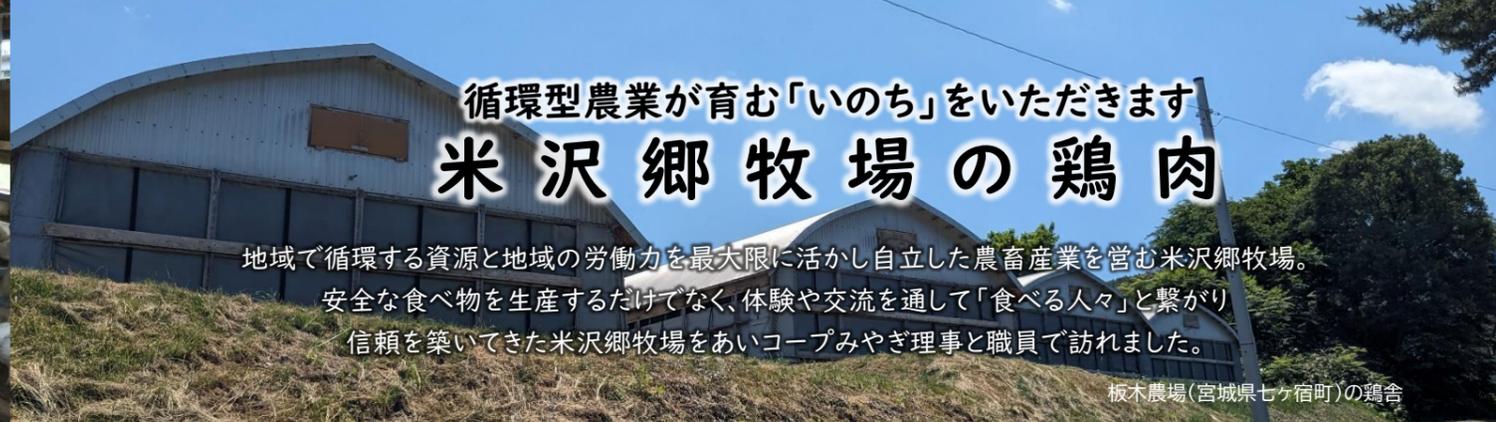
平安時代から1000年以上続いてきた輪島朝市は、震災前には100軒の店舗と住居があったそうですが、震災から半年を経ても、瓦礫の撤去すらまだ手付かずで、元日の地震と火災の直後から時が止まっているかのようでした。復旧の遅れについて、地元の方々からは「そもそも過疎地になりつつあった地域だから、国や行政の支援も消極的なのでは」と落胆の声も聞かれました。

輪島の復興には長い時間と困難があると感じましたが、生産者である橋本三奈子さんが目指す「輪島の伝統塩の継承」を少しでも手助けすることが、私たちあいこーぷだからこそできる支援ではないかと思いました。総額450万円にも上る組合員のカンパ金は、各支援団体への贈呈の他、美味と健康の塩工房の復興と継承、そして朝市を応援する会の活動資金として役立てていただけるよう、お話をしてきました。詳しい用途と贈呈の日程が決まり次第また組合員の皆様にご報告いたします。

常務理事 吉武 悠里



飼育50日頃 出荷時期の鶏



循環型農業が育む「いのち」をいただきます 米沢郷牧場の鶏肉

地域で循環する資源と地域の労働力を最大限に活かし自立した農畜産業を営む米沢郷牧場。安全な食べ物を生産するだけでなく、体験や交流を通して「食べる人々」と繋がり信頼を築いてきた米沢郷牧場をあいこーぷみやぎ理事と職員で訪れました。

板木農場(宮城県七ヶ宿町)の鶏舎

「人の暮らしのそば」にある鶏舎

見字ツアアの出発点は七ヶ宿町の「農林産物直売所」。蕎麦など食事を提供もしているこの施設の道向かいに「米沢郷牧場滑津農場」の鶏舎があります。「最近、畜産現場は山奥に追いやられて『鶏舎が臭う』って体験をしたことない人も多くて。実感ないかもしれないけど…」と説明を始めた米沢郷牧場の伊藤幸蔵代表。養鶏場の向かい側に食事もできる施設ができるなんて「鶏舎は鶏糞で臭い」という概念上、考えられないことですが、「ここにはそれがありません。(その秘密はやがてわかってきます。)



直売所と食事処の向かいに立ち並ぶ滑津農場の鶏舎

■生後3日のひな鳥 わが子のように

滑津農場からほど近い板木農場に移動し、長靴を丁寧に消毒して鶏舎へ。驚かせてストレスを与えぬよう、そつと足を踏み入れると、黄色いヒヨコがもみ殻の上で走り回っていました。鶏舎は広いですが小さいうちは囲いの中に集められ、初期はスタッフが泊まり込んで温度管理。夏でもバーナーでお湯を沸かして湿度も保つ徹底ぶりです。

この鶏舎で、出荷されるまで約50日大切に育てられます。大手ファストフードなどの鶏肉は35〜40日で出荷されるといいます。早く太らせ効率第一で出荷する養鶏ではないのが米沢郷流。ケージに閉じ込められ、走ることもできない鶏と違い、生き物らしく地面を走る鶏たちはゆっくり筋肉をつけていきます。



ひな鳥(生後3日)を前に説明を受ける理事と職員



まだとても弱いの

■窓のない家で暮らしたいか?

板木農場には8棟の鶏舎が建っています。いずれも外気が入る作り。国は窓のない造り(ウィンドレス)の鶏舎建設に補助金を出すが、システム化された養鶏を推奨していますが、伊藤代表曰くそれが最も良い飼育とは言えないそう。日本の養鶏の95%以上がウィンドレスという中で、米沢郷牧場の鶏舎は光と風の入る開放鶏舎です。



自然光と風の入る平飼いの鶏舎で育つ鶏(生後29日)

「ウィンドレス鶏舎は臭いやハエを外に出さず、外部からの病原菌の侵入を防いで家畜を守るとされているが、米沢郷では薬剤に頼らず微生物や発酵の力を利用して鶏を健康に育てる。自ずと臭いやハエ、病気も減ります」…なるほど、農場を歩いていてもひどい臭いは全くなく、ハエもとても少ない。

これは、鶏糞を発酵させ堆肥化したり、それによつて作られた生物活性水を鶏の飲み水にするなどのBMW技術(微生物の力で自然の浄化作用を促すシステム)によるものです。また「コンピューター制御のシステム養鶏は電力無しでは不可能。停電が続く事態があれば間違いなく鶏が死ぬ」との解説にも私たちは大納得。アニマルウェルフェアの観点から、ヨーロッパではウィンドレス鶏舎やケージ飼育が禁止されていくのに、それに逆行する国の方針には一同疑問を感じました。「病気にさえならなければいい」と葉で消毒され、窓のない家で檻に入れられ暮らすなんて、私も嫌だ!

■循環の中の1ピースである養鶏

米沢郷牧場が1980年に養鶏を始めた際、成功した理由は「儲けようと飼うのではなく、手間をかけ飼育環境を良くして、『死なせないように』育てたから」と話す伊藤代表。生産効率よりも飼育環境を優先した結果、効率も上がるという仕組みです。

そして循環の輪の中で「鶏が生きていること」が欠かせない要素であると、堆肥舎を見て理解しました。出荷までの約50日鶏が過ごした鶏舎には、大量の鶏糞を含んだ敷料が残ります。通常これらは廃棄物であり厄介者。しかし、農畜の連携ができている米沢郷牧場では、これが宝の山なのです。



説明をする伊藤幸蔵代表
完成した堆肥は優しい発酵臭

前述のBMW技術により、鶏糞で飼料米の生産にも非常に有効な堆肥を作ることができ。良い堆肥は、化学肥料には不可能な「土壌の物理的な改良」をもたらすことで、生産者グループの農地で活用されます。ぐるぐる回り続けていく恵みの連鎖が、米沢郷牧場の強みだと感じました。県をまたぎ、山形県は高島町にある飼料工場へ。これまで見てきた鶏たちが食べるものを、飼料米や米ぬか、菌体などを配合して作っていました。



独自の飼料工場を持つことで理想的な飼料を与えられる



地元の飼料米

農産物は飼料に、鶏糞は堆肥に。農業がなければ養鶏もない、逆もまた然り。循環の輪の中で生み出されるお米やお肉をいただくことの幸せを、風吹き渡る田んぼの前でしみじみ感じた一日でした。「地面を走り回っているから足が太いね!」「鶏糞だらけなのにあまり臭くない!」農場で素直に驚きました。現在これらは決して日本の養鶏のスタンダードではありません。だからこそその価値を認め、その商品を選び、支える生活者でなければと思います。だって私たちのこんなに近くに、効率よりも持続可能性を大切に、誇るべき生産者がいるのですから。

(文責 理事 鈴木真奈美)

しおさい地区委員会 海鮮丼食べ比べ

&ラフターヨガ

「前回参加できなかったラフターヨガをやってみたい」と地区委員さんの希望で2回目のラフターヨガを開催しました。ゆったり座ってまづ気持ちを取り戻す。毎日自分を支えてくれている足の指や足の裏に意識を向け、感謝をこめながらほぐしたりさすったりしました。身体が緩むと次第に心も緩み、開放感いっぱい時間が過ぎました。おなかもすいて待ち遠しい昼食は海鮮丼。今回は、あいコープのまんま通信に掲載されている数種類の海鮮丼を食べ比べるという魅力的な昼食でした。



忙しい時に便利な海鮮丼シリーズは委員さん達にも大人気！



畳でゆったりヨガ時間の後は贅沢に海鮮丼ランチ♪

実はこの海鮮丼シリーズ、5月に開催された委員オリエンテーションのグループワークで話題になったおすすめ水産品。地区委員さん達の「次の定例会で食べてみようー」が実現したのです。「味の違いが分かって良かった」「家ではなかなかできないこと、贅沢だった」と感想がありました。
自分達のやりたい！や食べてみたい！が叶うのが地区委員会。ぜひあいコープへお問い合わせくださいね。
しおさい地区担当理事 藤田紀子



七郷クローバーズファームにあるBM活性水プラント

社会福祉法人みんなの輪
わ：わ(若林) 相澤 正人

私たち「わ：わ」が、七郷にあるBM活性水のプラント管理をして約5年になります。職員と利用者さんが日々仕事に取り組んでいます。
BM活性水は、堆肥や鉱物を入れた水に酸素を送り込みながら微生物の力で精製し作られます。利用者さんは原料になる堆肥の袋詰めや、プラントの整備などの仕事を行います。また、まんま通信で扱うボトル入りの活性水の詰め作業も行っています。先日、エアポンプが故障した為、利用者さんと一緒に解体し、修理を行いました。やりがいと自信をもって作業されている姿は職人顔負けです。
薬剤に頼らない循環型農業は、自然環境と農家さんを守っていく上で必要なことであり、BM活性水を作ることので私たちがあいコープ自然循環型農業推進プロジェクトの一端を担っていること、さらにそれが障害をお持ちの方たちの作業と工賃に繋がっていることはとても意義があり、素晴らしいことだと思っています。



みんなのかん
資源循環プロジェクト
—第6回—

2024年7月2日(火)

理事会議事録抄

▼2024年度通常総代会の振り返りを行った▼総代会議案採決での「保留」の扱いを承認した▼常勤理事の設置を承認した▼2024年度理事報酬を決定した▼2024年度委員会予算を承認した▼プラスチック条約策定に関する要望書賛同及び、署名活動について承認した▼プラスチック条約への提言INC5参加を承認した▼脱プラスチック学習会企画を承認した▼総代懇談会企画を承認した。

組織概要

(2024年6月分)

【組合員数】	16,768名
【供給高】	246.072千円
【一人実利用高】	5,815/週
【出資金】	1,377,925千円



美味しいものをいつもありがとうございます。「世界で最初に飢えるのは日本」とのアメリカの統計結果がありますが、宮城・岩手は大丈夫。と思える一日でした。(委員オリエンテーション参加者感想)

このまま女川原発の再稼働を赦すのか

7月7日 女川現地講演集会

7月7日、女川町生涯学習センターで「女川原発再稼働を考

える女川現地講演集会」(女川原発再稼働を考える講演会実行委員会主催)が開催されました。「なぜ日本は原発を止められないのか?」(文春新書)の著者、青木美希さんから「原発ゼロで生きる方法」と題した講演を聞いた後、女川町内をパレードしました。

◆福島を事故を忘れたのか? 再稼働いよいよ9月に迫る(※) 集会には約550名の全国の参加者があり、入り切れない人に別のサテライト会場が準備されるほどでした。

あいコープみやぎからも関係者を含め約20名参加しました。何十年も女川原発に反対し続けている人達の姿も多く、あいコープみやぎ顧問の多々良さんや元町議の阿部さん、差止訴訟の原告の方々等今までのご苦勞を思うと胸に迫るものがありました。それなのに9月に再稼働なんて、愚かにも程があります。

◆講演 若きジャーナリスト 青木美希さん
「なぜ日本は原発を止められないのか?」の著者の明快な話には、希望が感じられました。

◆女川町内パレード(デモ) 30年ぶり?!
どうして一番の当事者であるこの女川でデモができなかったのか、事情が想像できません。

◆原発再稼働するな。まだまだ続けたたかい
♪いくら泣いてもあとの祭りよ♪(昭和だなあ)

脱原発エネルギーシフト委員 平井真樹子



あいコープののぼりを目印に 組合員や生産者が集結

(※)7月18日、再稼働は11月への延期が発表されました



私のオススメ商品



私のおすすめは、「2P あいコープのあら挽きウインナー」です。発色剤不使用の無塩せきで、産直豚肉を粗めに挽いた食感の良いウインナーです。私も毎週購入しています。自然な色、自然な味わいでこだわり抜いたウインナーをぜひお試しください!

事業部 鈴木貴之

編集後記

P45のカラー特集取材のため、米沢郷牧場の肉鶏舎を訪ねました。餌や飼育環境にこだわり、資源循環など意欲的な取り組みを行っている米沢郷ですが、冒頭、伊藤代表からは「世界中で飼育されている肉鶏はほぼ2種類しかない。ひな鶏の供給は海外資本が握っている」というお話がありました。意外に思われるかもしれませんが、米沢郷の肉鶏も地鶏等ではなく、いわゆる「ブロイラー」です。生産者の努力では何ともならない弱点をも確認できた見学会でした。

理事 石井朱里

委員さん募集中!

あいコープの仲間と食のこと環境のこと一緒に話しませんか?

お問い合わせ先
☎0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email soshiki@mamma.coop
(担当: 組織運営室長 豊嶋)



組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00~17:00

年金相談・9/10(火) 社会保険労務士 清野道子氏
13:30~15:30

法律相談・9/10(火)、9/18(水) 弁護士 倉林千枝子氏
13:30~15:30

子ども相談・9/17(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏

*介護相談は相談日のご希望を伺います。
介護相談 (ケアプランセンター木もれび 山崎彰子氏)

▼随時受付可能ですが、各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します。▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2024年6月分)

ささえあい(保障)	1件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	29件	利用延べ人数	11名
集団託児	7件	◆ケア時間	
慶弔・出産	12件		75.5時間
電話相談窓口	11件		
計	60件		



Ⓢ 急激な気温上昇に、リンゴの木も「暑い暑い」となっているのではないでしょうか。生産者の皆様におかれましては熱中症はじめお体に気をつけてお過ごしください。(トライリンゴオーナーから生産者へメッセージ)

また1年間 組合員の食卓を守ります

作る約束・食べる約束の「年間登録米」

今年も9月1回から、あいコープの「お米の年間登録」募集が開始されます。登録米とは、1年間定期的にあいコープのお米が届く定期購買システム。注文忘れがないのも利点ですが、実はもっと奥が深いのです。

生産者は、あいコープ組合員の注文量を想定して、あいコープ向けの作付け量を決めています。お米は、急にたくさん求められても急には作れないし、急に要らないと言われたら余ってしまいます。「1年間あいコープのお米を食べますよ」と約束し「1年間しっかり出荷しますよ」と約束するのが登録米なのです。

登録したら1年間、原則キャンセルはできません。しかしこの「約束」によって、たとえ市場で米不足が起こっても優先的に届けられますし、米の価格が変わっても可能な限り当初決めた価格で届けられます。生産者も組合員も安心！

登録米の申し込みは9月20日まで。年間通してみんなで産直米を食べましょう。



県内3産地の他、米沢郷牧場や山形の星川さんのお米も登録できます



大郷グリーンファーマーズのJAS有機圃場を見学する組合員

あいコープ お米の産地トリオ



大郷グリーンファーマーズ 西塚 忠樹さん
七郷クローバースファーム 細谷 滋紀さん
はさま自然村 菅原 達徳さん

■今年の暑さも災害級で、特に、5月6月序盤の水不足には悩まされました。田植えの後10日も用水路に水が流れてこない田んぼも多くあり、稲にもだいたい負担をかけたと思います。5年産のお米の流通量が少なく、お店では値上がりが見られるお米ですが、「登録米」を利用することで、少しではありますが、家計への負担が減ると思いますので、ぜひ活用ください！間もなく稲刈り。皆さんに1年間美味しいお米を届けるために、最後の仕上げの管理にも余念がありません！ (西塚 忠樹)

～今年の田んぼの様子は？～

■『苗半作』…今年のクローバースの田んぼは、この言葉に尽きます。

育苗開始直後、昨年同様の高温に苦しめられる毎日。苗が暑さで徒長し過ぎて、このままでは予定よりも田植えも早まるし、田んぼへの活着も悪くなってしまおう…そんな中、スタッフは頑張りました♪毎日毎日、ローラーで苗踏みを始めました。毎日です。まるで部活でした(笑)更にハウスや水管理の意識も高まり、気付いたら…クローバース田んぼ始めて12年、一番良い苗になっちゃいましたw

今も高温の日々が続いています。負けずにとっても順調にスクスク



水稲苗へのローラー掛け

育っています。田んぼ管理するのが楽しいぐらい…そんな「七郷のお米」今年も例年以上の出来栄えのはず♪

みなさん！期待して待っててくださいね(◁)▷ (細谷 滋紀)

■今年は暑さのせいで、育苗で失敗した品種もありました。一方、植えてからの田んぼでの生育はいい方です！あとは、今後通常化しそうな温暖化による高温障害のお米の割合が少なくなるように、管理を学んで実践していきたいです。現在、世の中から5年産のお米がなくなり、一般の消費者さんが買えなくなるという状況があります。しかしあいコープの組合員さん向けのお米は、安定供給できるようにしっかり作って確保しておきますのでご安心ください！「お米の登録制度」でこんなに安心感があるなんて、生産者としても改めて実感しています！ (菅原 達徳)

今後の予定

9/19

木

石けん環境委員会主催
マイクロプラスチック学習会(仮)

場所/七ヶ浜国際村 セミナー室1
時間/ 10:00~12:00
参加費/無料

9/24

火

2024年度第一回
総代懇談会

場所/日立システムズホール 3Fエッグホール
時間/10:00~12:00
参加費/無料



2024年11月2日(土)

10:00~14:00

仙台卸商センター サンフェスタにて！

女川原発が止まってから

4897 日目

(2024年8月5日現在)